

令和6年1月吉日
学校関係者評価委員様

ようがの学び舎
世田谷区立用賀中学校
校長 草開 宣晶

次年度に向けた改善方策

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて学校評価委員会よりご指摘いただきました課題につきまして、学校全体で社会の変化に柔軟に対応できる力を身に付けながら、コロナ禍の中でさらに生徒・保護者に寄り添う気持ちを大切にし、以下のように改善を図ります。ご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。

評価委員会からの4つの提言について、以下の改善策を立てました。

1. 新しい「学力観」への理解

試験などで高得点が得られるための知識が学力と捉えがちな保護者が多いなか、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力等が本当の学力であるという新しい「学力観」についての理解を深める必要がある。

また、この「学力観」に基づき学習指導を進めていることを知っていただくためにも、より多くの保護者が参観日に足を運べるよう、日程調整に加え、授業への関心がもてるより一層の広報活動をお願いしたい。

- (1) 保護者会・進路説明会・学校だより等の機会を捉えて、新しい「学力観」の啓発をさらに推進する。
- (2) 「ようがで育てる3つの学び」に取り組みをさらに進め、新学習指導要領を捉えた研究を推進する。

2. 教職員と保護者の信頼関係

新型コロナ前は「本校は、子どもや保護者が相談しやすい。」の問いに「しにくい」「よくわからない」と4割の保護者が回答していたが、昨年度より7割の保護者が同問いについて「とても思う」「思う」と回答した。コロナ禍において、保護者との向き合い方に変化が生じ、保護者から学校への連絡のツールが多様になったためと思われる。今後もこうしたツールを有効的に活用して、学校として更に、保護者とのより良い関係を続けていけることを期待したい。

- (1) 過去にPTAと作成した「相談の手引き」の普及・啓発を進める。
- (2) 学校・教員以外にも様々な相談関連窓口があることを周知していく。
- (3) 学校協議委員・学校運営アドバイザーや学校運営委員の幅広い人材や知識を活用していく。
- (4) 「用賀中だより」の広報誌の活用を通して、学校で行われている教育活動の発信を推進していく。
- (5) 本校の生活指導モットーである「人の心の痛みがわかる人間になろう」を基にして温かい言葉遣いや、日常の挨拶の推進を用賀中に集う生徒・教職員・ようがの学び舎関係者に啓蒙推進していく。

3. キャリア教育への理解

保護者の進路指導に対する考えが、進学先の選択やその合格可能性に偏りがちであり、将来、社会人として自立していくために必要な能力を身に着ける指導（キャリア教育）についての周知が低い。保護者がキャリア教育について理解できるような説明と3年間を通して段階的に行っている学校の取り組みについて、今後も更に情報発信をお願いしたい。

- (1) 保護者会・進路説明会・学校だより等で、学校の実施している「キャリア教育」を具体的に保護者に説明することを継続し、さらに進める。
- (2) 本校の卒業生やYCC・地域の方を活用した職業講話等、保護者の参観の機会を増やし、職業学習や職場体験等の成果を公開していくことを推進していく。

4. 生徒一人一人とのコミュニケーションの充実

「先生たちは、生徒が相談しやすい。」と考える生徒は約7割である。指導場面や状況によって、受け止め方、感じ方が個々の生徒により異なり、数値のみでは判断が難しいものの、今後も、生徒一人一人と丁寧に話す時間・機会を充分につくらなければならない。

- (1) 7月に全学年に面談を実施する
- (2) 自己肯定感や自尊感情を高める指導、特別支援教育の指導を含めた生徒理解についての教職員研修を実施する。
- (3) 情報共有を密にし「寄り添う気持ちを大切に」を合言葉にチーム用賀として生徒指導にあたる。

前年度の改善方策について実行した改善結果

今年度は、以下のように実施しました。

1. 新しい「学力観」への理解

- (1) 保護者会・進路説明会を捉えて、新しい「学力観」の啓発を実施した。特にPTA研修会で高校の先生に講師となっていただき啓発に努めた。「用賀中だより」でも発信をした。
- (2) 公開授業等で、新しい「学力観」や「ようがで育てる3つの学び」の育成を意識した授業を実践した。学び舎の研究授業のテーマとしても実施した。

2. 教職員と保護者の信頼関係

- (1) 教員だけでなくスクールカウンセラー・特別指導専門員・包括支援員や関係諸機関とも連携した。

3. キャリア教育への理解

- (1) 保護者会・進路説明会・キャリア教育だよりで、「キャリア教育」を保護者に具体的に説明した。
- (2) 学校公開等、保護者の参観の機会を増やし、職場体験を行った。PTA進路説明会も行った。

4. 生徒一人一人とのコミュニケーションの充実

- (1) 学校運営アドバイザー・学校関係者評価委員・YCC・PTAや関係機関の協力を得て、様々なSNSトラブル回避の研修を通してよりよいコミュニケーション方法の醸成を図った。
- (2) 特別支援の生徒理解について、教職員の研修を実施し、今後も計画している。